

平和・国際理解・人権Ⅱ ～沖縄から見つめ直す自分、世界、そして平和へ～

木下雅仁・三島徹
鈴木善晴・高橋伸行
山田玲子・佐藤喜世恵

【抄録】 高校2年生では、2004年11月に実施した沖縄でのフィールドワークを柱に、「平和・国際理解・人権」を大テーマに掲げながら総合人間科の学習を展開した。今年度は“沖縄から見つめ直す自分、世界、そして平和へ”をサブテーマに設定し、まずは自分の足元や身近なレベルからの問題関心・問題意識を拾い上げる作業を行い、沖縄でのフィールドワークをハイライトとして我が国全体や世界との関わりの中で平和や人権の問題をどのようにコミットしていくべきかを考えた。

【キーワード】 総合人間科 平和 国際理解 人権 沖縄 学びを創る

1. はじめに

本校における総合人間科の取り組みも円熟期を迎えているが、方法論やフィロソフィーは毎年洗練されたものになっている。しかしながら、学校として大切にしている本取り組みの教育的価値は、根本的な部分で変わりが無く、伝統を受け継ぎながらも、プログラムは深みのある展開ができるように、毎年、各学年の担当者らによって努力と工夫が加えられている。

今年度の高等学校2年生の総合人間科では、年間の学習計画を立てるにあたって、以下の4点を心がけた。

- (ア) 本校の総合学習の原点に帰り、多様な興味・関心を持った生徒諸君に柔軟に対応し、生徒・教師がともに学びを創る。
- (イ) 脱教室、脱偏差値、脱教科を促進し、個に応じた自己探求力、自己学習力を身に付けれるように粘り強く取り組む。
- (ウ) 総合的な学習の目標に沿った自己評価の観点を持つ。
- (エ) 週5日制に対応した学習計画の再編を念頭に置く。

以下、本稿においては、2004年度の取り組みの概要を簡潔に整理していくことにする。

2. 2004年度の授業の流れ

(1) 学年のテーマと目標

先述の通り、高校2年生の総合人間科の学年テーマは、例年、「平和・国際理解・人権」である。2004年度は、「沖縄から見つめ直す自分、世界、そして平和へ」というサブ・テーマを設定した。平和への脅威が進行する国際情勢や、社会情勢の中、沖縄を1つのフィールドとして平和、共生、人権、異文化という諸問題を中心となる自己を基盤に、自己を取り巻く他者との関係、社会と

の関係を考え、自分がそれらの問題にどのように関わっていくかを考える機会を、この総合人間科の学習の中に見いだしたいと考えた。

また、学年の目標としては、次の2点を設定した。

- (ア) 沖縄を1つのフィールドとして世界の平和、共生、人権、異文化理解という社会の諸問題に気づき、感性を高め、自己との関わり方を考え深める。
- (イ) 自己完結型思考ではなく、多様な観点から上記の問題を柔軟に考え、相互の意見や考えを共有し、互いの学びを活性化する。

(2) 学習方法と形態

11月中旬に実施した沖縄での研究旅行をフィールドワークを中心として学習計画が立てられたが、日頃の学校での学習については、以下のような学習方法と形態を取った。

- (ア) 「個人」研究と「グループ」研究の使い分け、フィールドワークの位置づけ、討論学習、パネルディスカッション、スピーチ、研究集録などの活動を通じて表現力を身につける。
- (イ) 基本的にグループ研究とし、研究内容によるグループ化、または討論テーマによりグループ化し、パネルディスカッション形式の討論を取り入れる。グループ毎の完全チューター制とする。
- (ウ) 自分の興味・関心のあるテーマを調査したり、知識の集積にインターネットを利用し、またその記録にビデオやデジタルカメラを利用したり、発表にコンピューターやビデオなどの情報器機を利用する。

また、評価については、知識や法則性の習熟度による評価ではなく、学習への取り組みの意欲・関心の向上、自己学習力の向上、学習方法の工夫といった個々の生徒諸君の学習のプロセスを積極的に評価するようにした。

1年間の学習記録については、資料1の「2004年度高校2年生総合人間科学習のあしあと」を参照されたい。

3. グループ学習と沖縄研究

1年間の学習の流れの中では、いくつかの核になる取り組みがあった。

(ア) プレ研究Ⅰ

各クラス毎に、6つの研究班を編成。各班が与えられたテーマに沿ってグループ研究を進める。6つのテーマは以下の通りである。

- ① 沖縄の歴史（古代～沖縄戦前まで）
- ② 沖縄戦Ⅰ
 - ・ 大戦までの流れ（日本と世界）
 - ・ 沖縄戦の推移（米軍上陸から終戦まで）
- ③ 沖縄戦Ⅱ
 - ・ 沖縄戦の事実（皇民化教育、捨て石作戦、etc.）
- ④ 戦後の沖縄
 - ・ 世界と沖縄（基地の役割）
 - ・ 日本と沖縄（復帰までの歴史）
 - ・ 沖縄の経済・環境・産業
- ⑤ 基地問題
 - ・ 米軍基地の実態、目的・活動、配備、事故・事件
 - ・ 本土の米軍基地との比較
 - ・ 反対運動の歴史
- ⑥ 沖縄の自然・伝統文化・生活

各研究班では、上記の①から⑥までの大テーマのもと、それぞれが関心を持つ話題や題材を取り上げ、やや自由な枠組みの中で、沖縄についての基礎的知識を整理することを目指した。研究成果は、レポート形式にまとめ、6班分の資料を纏めて冊子を作り、クラス全員に配布した。

(イ) プレ研究Ⅱ

プレ研究Ⅰが終了するとすぐに、各自が沖縄をめぐって興味・関心を持っている題材や事柄を研究テーマとして絞り、類似する研究領域の生徒同士で研究グループを編成した。7～8人程度の人数で研究グループを編成したが、個々人の研究関心は十人十色であるため、グループの中で健闘を重ね、グループとしての研究テーマを絞った。ここで行ったプレ研究は、沖縄研究旅行（2004年11月16日～19日実施）期間中の11月18日に実施したフィールド・ワークを行うための事前学習を兼ねることになった。

注）沖縄でのフィールド・ワーク先一覧は、2004年度の高校2年生の総合人間科・研究集録『平和・国際理解・人権Ⅱ～沖縄から見つめ直す自分、世界、そして平和へ』に掲載されているので、参照されたい。

(ウ) 研究集録用の論文執筆

沖縄研究旅行で行ったフィールド・ワークによって、プレ研究Ⅱから本年度のグループ研究が有機的にブリッジされ、それぞれの研究グループで研究が深まった。その成果を論文にまとめ、『研究集録』の原稿を作成する取り組みを、グループ単位で行った。

論文の章立て、内容の吟味、記事の精選、写真や補足資料の選定、ワープロによるレイアウト作業や印刷など、多くの複雑なプロセスをグループ内で効率的に分担し、質の高い論文を仕上げる事ができた。

余談になるが、今年度は、すべての研究グループがパソコンを使って原稿を加工し、デジタル化した原稿を提出した。生徒たちの資料整理能力とコンピューター・リテラシーの高まりが実感された。

各研究班の研究テーマ（研究集録論文の題目）を以下に示す。

- ・ A組1班
「沖縄の歴史から見る平和」
- ・ A組2班
「THE BIG RING」
- ・ A組3班
「アメラジアンの子もたちの教育の現状」
- ・ A組4班
「美ら海（ちゅらうみ）ナマカラル ヤンドー」
- ・ A組5班
「沖縄の独特な食文化・住文化―占領による影響―」
- ・ A組6班
「沖縄の文化～琉球舞踊～」
- ・ B組1班
「平和への思いを新たに・・・」
- ・ B組2班
「様々な差別」
- ・ B組3班
「沖縄の自然と文化」
- ・ B組4班
「平和を伝える琉球音楽」
- ・ B組5班
「様々な視点から見る基地」
- ・ B組6班
「基地の中心で平和を叫ぶ～ナマカラル ヤンドー～（今からだよ、たたかいは）」
- ・ C組1班
「沖縄戦の裏側」
- ・ C組2班
「沖縄戦による市民への影響―豊見城市―」
- ・ C組3班
「アメラジアン」
- ・ C組4班

「米兵が沖縄に与える経済効果」

・C組5班

「基地から考える日米関係」

・C組6班

「ヤチムンの歴史」

各研究グループの研究テーマから、様々な問題や題材をこの一年間のグループ研究によって拾い上げ、それとともに学び合うグループ学習を通して、生徒たちは深みを付けてきた。『研究集録』に収められた各論文は、それぞれに独自の視点や切り口からアプローチされており、沖縄をフィールドとして、平和や国際理解、そして人権の問題にアプローチした足跡が見て取れる。

生徒たちの沖縄学習に向けられた“想い”を知ることができる記述が『研究集録』の中に散見される。その一例を紹介したい。

テーマ設定理由

私たちは「平和」と言うあまりにも大きなテーマの中で1つでも小さなテーマを決める事はすごく悩みと同時に大切なことなのでしっかりと決めなければならぬという責任感を感じました。

事前学習では沖縄戦の流れや米軍の基地問題や沖縄の生活・伝統文化などについて学びました。しかし、勉強になったとは言え、本やインターネットといった表面上で学んだことでもあったせいakaあまりにも興味がわきませんでした。

そこで、時代・性別・歳といったいろいろなキーワードの中で私たちと共通するものはないかと考えました。なぜなら、共通しているものがあれば考えやすいし興味もわくと思ったからです。その結果、キーワードを「歳」としました。歳とは私たちと同じ歳と言うことです。そのキーワードを元に班全員で考えたところ、「ひめゆり学徒隊」となりました。ひめゆり学徒隊とは、ちょうど私たちの年代の子どもによって構成された部隊で主にガマの中で兵隊の看病をしていました。

共通な歳という小さな輪が私たちが一生懸命に学ぶことによって大きな輪（THE BIG RING＝大きな輪＝沖縄）を今後の私たちの人生に結びつけられたら良いと思い、テーマをきめました。

A組2班「THE BIG RING」『研究集録』より

4. まとめ

沖縄におけるフィールド・ワークを中心とした高校2年生の総合人間科の学習は、グループ学習の形態で仲間同士が支え合い、刺激し合いながら学習を進めていくのだが、一年間の研究を通して、全員が共通して再確認できたのは平和への思いではなかろうか。人間の命の尊さと重さは、いつのどの時代もどの場所でも変わることはない。沖縄の過去、現在、そして未来を考えることに

よって、高校2年生の総合人間科の研究テーマ「平和・国際理解・人権」がリアルな問題意識となって私たちの目の前に浮かび上がってきた。

本稿のまとめに代えて、生徒の『研究集録』に収められた論文から、メッセージ性の高い記述を引用しておく。今後、本校の総合人間科の取り組みがさらに充実し、平和への想いを世に発信し続けていくことを祈りつつ。

World peace begins in the heart of each person on Earth.

戦争のない世の中って1人1人の気持ちから始まるんじゃないかな。

私は、こう思う。沖縄での研究旅行（事前学習からフィールド・ワーク、そして沖縄で学んだこと、感じたことをまとめた研究集録）を終えた、私たち名大附属高2全員の気持ちは1つだと思う。

「どうして戦争なんていう悲惨な行為をするんだろう？」

「戦争なんかして欲しくない！」

「平和であって欲しい・・・。」

この単純な強い思いを116名が抱いても、ちっぽけに思えるかもしれない。しかし、トマス・ペインは『時を得た思想ほど強いものはない』と言っている。私も同感だ。

『日本の歴史は、民衆の泣き寝入りの歴史である。』と政治思想学者、丸山真男は言う。これを絶対に変えなければいけない。そのためには、何が「嘘」で何が「真実」なのかを見破らなくてはならない。そして、何があっても真実を叫ぶ「精神的勇氣」がなければならない。「精神的勇氣」とは、フランスの名ジャーナリスト、ロベール・ギラン氏が、戦争中も日本にいて身近で日本人を観察し、なぜ戦争が止められなかったのか、と言うことに対してのひとつの結論の中に出てくる言葉だ。その結論とは、『日本人に「肉体的勇氣」があっても、「精神的勇氣」が欠けていたからだ。「真理を尊重する」重要な徳が欠けていた。だから、ずるすると皆が悪の力に引きずられていった』と言うことだそうだ。

統一ドイツの初代大統領ヴァイツゼッカーは、こう言っている。「過去に目を閉ざすものは、結局のところ、現在にも盲目となります」と。この言葉は、戦争に関わらず、勉強・部活・日頃の行い全てにあてはまると思う。嫌なことから目を背けてはいけない。沖縄戦も、調べて、知れば知るほどつらくなる事実ばかりだった。けれども、私たちは、この歴史を通じて、悪い歴史を繰り返さぬようにしなくてはならない。だが、今の世界は「過去に目を閉ざして現在に盲目になっている」うえに、「歴史の教訓」から何も学んでいないの

だ。今もまだ戦争をしている。争い・人の命を奪うことが、どれほど愚かなのか、わかっていない。たくさんの人を傷付け、街を破壊した結果得られるモノはそんなに大きいのだろうか。私は、「人の不幸の上に自分の幸せを築きあげることにはできない!」と思っている。人を幸せにしてあげて初めて、自分も幸せになれるのだ。

沖縄戦の実態については、このように言われている。

“鉄の暴風”

この世のありたけの地獄を1カ所に集めたような戦争。戦争の醜さの極地だ。それ以外、どうこれを説明しようもない。

私たちは、これらの過去の事実に関心を閉ざさない。歴史の教訓を学び取り、この世界を私から、名大附属から、沖縄、日本から平和にしていく。

A組1班「沖縄の歴史から見る平和」
『研究集録』(p.9)より

追記

今年度の総合人間科の取り組みの柱となった沖縄研究旅行のアンケート結果を集約したものを資料2に掲載する。(アンケート部分の文責は鈴木善晴による)

参考文献

- ・安彦忠彦・名古屋大学教育学部附属中・高等学校。(1997)『中・高「総合的学習」のカリキュラム開発』明治図書。
- ・名古屋大学教育学部附属中・高等学校編著。(2003)『新しい中等教育へのメッセージ』。黎明書房。
- ・藤田高弘、三島徹、鈴木善晴、川田基生、竹内史央、大林直美(2004)「『国際理解と平和Ⅱ』平和を学ぶ—沖縄から見つめ直す平和—」。名古屋大学教育学部附属中・高等学校編。『名古屋大学教育学部附属中・高等学校紀要』。第49集。
- ・木下雅仁・金田裕子「高大連携による「ともに学びを創る授業」分析の試み～総合人間科をフィールドに～」。名古屋大学教育学部附属中・高等学校編。『名古屋大学教育学部附属中・高等学校紀要』。第49集。

■資料1

2004年度 高校2年生 総合人間科 学習のあしあと

4月16日 (金)	5限	総人	授業参観 高2総人オリエンテーション 沖縄研究旅行下見報告等
4月22日 (木)	5限	行事	高校生徒総会①
	6限	総人	ブレ研究Ⅰ テーマ別グループ決め 研究方向決め
5月13日 (木)	5限	総人	ブレ研究Ⅰ-① ・6つの研究グループ ・チューター制
	6限		
5月27日 (木)	5限	総人	ブレ研究Ⅰ-②
	6限		
6月3日 (木)	5限	総人	・ブレ研究Ⅰ-③ ・教育実習生の講演会Ⅰ
	6限		
7月1日 (木)	5限	L T	学年合同レク
	6限	総人	FW研究テーマ希望調査
7月8日 (木)	5限	総人	ブレ研究Ⅰ「レジュメ集」配付 ブレ研究Ⅱ テーマ・グループ決め 夏期研究分担
	6限		
9月2日 (木)	5限	総人	夏期分担研究報告会 研究方向調整 ブレ研究Ⅱ-①
	6限		
9月9日 (木)	5限	総人	ブレ研究Ⅱ-②
	6限		
9月30日 (木)	5限	総人	ブレ研究Ⅱ-③ FWアポ取り
	6限		
10月14日 (木)	5限	総人	フィールドワーク訪問先決定 依頼状作成
	6限		
10月21日 (木)	5限	総人	映画 GAMA月桃の花 鑑賞会 保護者向け研究旅行説明会
	6限		
10月28日 (木)	5限	総人	ブレ研究Ⅱ-④
	6限		
11月4日 (木)	5限	総人	ブレ研究Ⅱ-⑤
	6限		
11月11日 (木)	5限	L T	合同L T FW計画発表会 公開授業 (第1総合教室) 研究旅行日程など詳細説明会
	6限		
沖縄研究旅行	※11月16日 (火) ~19日 (金)		
12月9日 (木)	5限	総人	研究旅行・FWまとめ、集録まとめ①
	6限		
1月13日 (木)	5限	総人	研究旅行・FWまとめ、集録まとめ② FW発表会準備
	6限		
1月27日 (木)	5限	総人	フィールドワーク発表会 班別準備 (レジュメ作成) 於: 各HR教室
	6限		
2月3日 (木)	5限	総人	フィールドワーク発表会 (前半/1~3班) 於: 第1総合教室
	6限		
2月17日 (木)	5限	総人	フィールドワーク発表会 (後半/4~6班) 於: 第1総合教室
	6限		
3月10日 (木)	5限	総人	1年間のまとめ 高1へのプレゼンテーション
	6限	L T	

■資料2

2004年度研究旅行

アンケート分析

文責 鈴木善晴

アンケートの目的は、今年度の反省点を洗いだし、来年度への引き継ぎをすることである。よって悪戯に多くのアンケート項目を設定せずに、今年度旅行を担当した私が必要と思われる場所、場面の最小限にした。

初日

トロピカルフルーツ体験と料亭那覇での夕食は今年度新たな試みであった。本土でサトウキビを食べることは滅多になく、ドラゴンフルーツは売っていたとしても高価で普段食さないの、なかなか食べる機会がない。いい経験ができたのではないだろうか。夕食は、昨年度まではホテルのバイキングであったのを料亭那覇に変更した。それなりの評価を得たので安心した。

国際通り散策自体の評価は高いが、時間が短かったことに評価が低い。本来ならもう少し時間が取れたのであるが、全体の流れから遅れてしまった。もう少し余裕のある計画にするべきであった。

入浴は、時間設定が短いにもかかわらずそれなりにできたようなので安心した。

二日目

レストラン「エスペランサ」の評価がかなり低い。来年度の見直しは当然であるが、評価が低いのは料理に起因していると考え。旅行委員会で一生懸命に選んだ牛タンシチューであったが、事前に献立を発表せず、何を食べさせられているかが分からなかったの、美味しく食べられなかったのではないだろうか。来年度は沖縄料理やバイキングが良いと考える。

また、抜本的な解決策として旅行全体の献立をしおり等に記載して事前に発表するとよいのではないだろうか。その場面で何が出てくるかが分かり、FW時の昼食と最終日の昼食が重なることが防げるのではないだろうか。来年度へ引き継ぎたい。

雨で磯遊びができなかったが、多くは国際通りや銭湯入浴と時間を有効に使うことができた。誰もが臨機応変に動けたので、とても良かった。

夜のエイサーはみんな元気よく踊っており、沖縄文化に触れる良い機会であった。教えに来てくれた人たちも笑顔で帰られ、みんなの誠意がちゃんと伝わった気持ち良い時間であった。

三日目

FW後、雨にもかかわらず浜辺で沢山の人が遊んでいた。本当に晴れて欲しいと願うばかりであった。

四日目

沖縄ワールドまで少々遠く、お昼までの時間が長くなってしまったが、みんなよく耐えてくれたと思う。ここはお土産の充実度や見学場所がたくさんあり、空港までの時間を有効に使えると考えて設定した。評価は普通なので、もし来年度も遅い時間の飛行機であればこと那覇空港で過ごすのも良いであろう。

飛行機の時間はずいぶん遅く、もっと評価が低いことを予想していたが、大人の評価をしてもらえたので安心した。来年度からは中部国際空港になるので、生徒のアクセスを見直す必要がある。

平和学習

安里要江さんの講演と糸数壕は評価が飛び抜けて高い。沖縄に行つてすぐの体験で、戦争当時の現実をいきなり突きつけられ、多くの人が正面から受け止めてくれた結果が現れたんだろう。

沖縄国際大学の米軍ヘリ墜落事故現場は、バスで通りがかっただけの人が大多数であるが、それなりに評価が高い。遠回りをしてでも行って良かった。

沖縄平和記念館やひめゆり平和祈念資料館は、熱心に見学する生徒が沢山いた。今年は時間帯を考えて行ったので、去年よりはゆっくり見学をすることができた。

FWは自分たちで探してきたところであり、少人数で直接お話を聞ける絶好の機会である。凄い支持である。

旅行全体としては、評価が高く、よい旅行であったと言える。みんなが真剣に取り組んでくれた成果が結果に現れたと考える。

研究旅行アンケート集計結果

よ か っ た	ま あ よ か っ た	ま あ 悪 か っ た	悪 か っ た
------------------	----------------------------	----------------------------	------------------

<初日>

	計	16	69	18	10
1. トロピカルフルーツ体験はよかったですか？	計	16	69	18	10
	A	6	26	4	2
	B	7	23	6	2
	C	3	20	8	6
2. 料亭「那覇」はよかったですか？	計	32	60	16	5
	A	5	24	7	2
	B	16	16	5	1
	C	11	20	4	2
3. 国際通り散策はよかったですか？	計	87	24	2	0
	A	26	11	1	0
	B	32	5	1	0
	C	29	8	0	0
4. 国際通り散策は60分ですがよかったですか？	計	15	39	32	27
	A	4	12	12	10
	B	6	12	9	11
	C	5	15	11	6
5. 入浴の時間はありましたか？	計	32	51	21	9
	A	8	17	9	4
	B	11	18	6	3
	C	13	16	6	2

<二日目>

7. レストラン「エスペランサ」はよかったですか？	計	1	18	39	55
	A	0	2	18	18
	B	1	15	13	9
	C	0	1	8	28
8. 雨のため夕食まで自由時間にしましたが何をしましたか？	計	A	B	C	
	国際通り散策	71	23	20	28
	銭湯入浴	12	4	6	2
	部屋で遊んだ	1			1
	トランプ	1			1
	カードゲーム	3		2	1
	部屋でのんびり	13	11		2
	ふらふらと	7			7
9. エイサーはよかったですか？	計	45	50	13	4
	A	12	19	4	2
	B	17	16	4	1
	C	16	15	5	1
10. ホテルの銭湯に入浴しましたか？	計	A	B	C	
	入浴した	16	4	7	5
	入浴していない	97	34	31	32

<三日目>

12. 残念ながら雨が降ってしまいましたが、浜辺で遊びましたか？	計	A	B	C	
	遊んだ	79	26	29	24
	遊んでいない	31	12	9	10
	無回答	3	0	0	3
13. ホテルの施設は利用しましたか？	計	A	B	C	
	コンビニ	21	7	8	6
	ゲームセンター	17	2	12	3
	お土産	30	12	12	6
	銭湯	4	2	0	2

<四日目>

15. 沖縄ワールドの昼食はよかったですか？	計	28	62	17	6
	A	8	20	7	3
	B	12	21	4	1
	C	8	21	6	2
16. 沖縄ワールドはよかったですか？	計	27	62	18	6
	A	10	20	8	0
	B	11	19	5	3
	C	6	23	5	3
17. 空港での散策はよかったですか？	計	48	54	9	5
	A	19	16	2	1
	B	17	18	3	0
	C	12	20	4	4
18. 自宅についたのは何時でしたか？許せる範囲ですか？	計	A	B	C	
	許せる	87	27	32	28
	仕方がない	17	8	3	6
	少し遅い	1	1		
	遅い	3	2		1
	無回答	2			2
20. おみやげを買う時間（自由時間）はよかったですか？	計	53	44	11	1
	A	20	14	4	0
	B	19	13	5	1
	C	14	17	2	0

「平和学習」

- ④とても勉強になり印象に残った ③まあ勉強になり印象に残った ②あまり勉強にならず印象に残らなかった
①勉強にならず印象に残らなかった

		④	③	②	①
1. 安里要江さんの講演	計	63	42	4	4
	A	22	14	2	0
	B	21	15	1	1
	C	20	13	1	3
2. 糸数壕（アブチラガマ）	計	97	14	1	1
	A	29	8	0	1
	B	35	3	0	0
	C	33	3	1	0
3. 通りがかりの沖縄国際大学	計	22	52	27	12
	A	9	15	8	6
	B	5	23	5	5
	C	8	14	14	1
4. 嘉数高台	計	19	59	26	9
	A	5	21	9	3
	B	6	20	8	4
	C	8	18	9	2
5. 韓国人慰霊の塔	計	19	60	27	7
	A	7	21	7	3
	B	6	20	10	2
	C	6	19	10	2
6. 県立平和祈念資料館	計	49	43	17	4
	A	18	12	7	1
	B	16	18	3	1
	C	15	13	7	2
7. 平和の礎	計	43	46	17	6
	A	17	13	5	3
	B	16	15	6	1
	C	10	18	6	2

8. エスペランサでの講演	計	3	18	55	37
	A	1	4	17	16
	B	1	6	22	9
	C	1	8	16	12
9. 魂魄の塔	計	19	60	29	5
	A	7	21	8	2
	B	7	18	11	2
	C	5	21	10	1
10. ひめゆり平和祈念資料館	計	66	36	8	3
	A	28	8	2	0
	B	18	15	3	2
	C	20	13	3	1
11. FW (一人2カ所記入)	計	150	61	4	2
	A	51	20	2	1
	B	54	18	1	1
	C	45	23	1	0
13. 勤労者体育センターでの小橋川さんの講演	計	28	45	24	15
	A	8	14	9	6
	B	13	13	8	4
	C	7	18	7	5
14. 読谷飛行場	計	19	59	23	11
	A	7	18	7	5
	B	8	14	10	6
	C	4	27	6	0
15. 座喜味城跡	計	22	52	27	11
	A	10	13	10	4
	B	4	19	10	5
	C	8	20	7	2
16. 楚辺通信所 (ゾウのオリ)	計	21	51	29	11
	A	5	16	13	3
	B	5	18	9	6
	C	11	17	7	2
17. 安保の見える丘 (嘉手納飛行場)	計	29	53	17	13
	A	8	16	8	5
	B	9	21	4	4
	C	12	16	5	4